

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

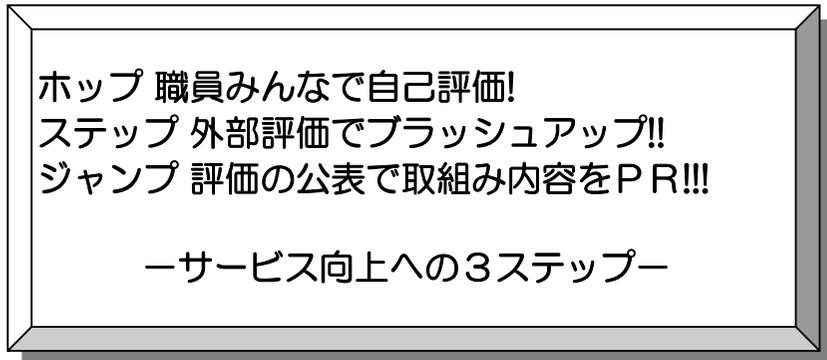
I.その人らしい暮らしを支える

- (1)ケアマネジメント
- (2)日々の支援
- (3)生活環境づくり
- (4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制



【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 10 月 22 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 16名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	1名	

※事業所記入

事業所番号	3870103037
事業所名	グループホーム愛松園
(ユニット名)	ひまわり
記入者(管理者)	
氏名	増野 京介
自己評価作成日	令和 3 年 9 月 25 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】</p> <p>1. ゆつくり、一緒に、楽しく、家庭的で温かな雰囲気でご過ごして頂きます。</p> <p>2. 自立し生きがいをを持った生活を支援します。</p> <p>3. 愛され、尊敬され、認められ、人間としての尊厳を大切にします。</p> <p>4. 安心・安全な生活の提供に努めます。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>1、「目標」地域に事業所が認知され、関係性を構築する「内容」回覧板を事業所へ回してもらえよう願う、地域の行事への参加、運営推進会議の地域の参加者を増やすよう、民生委員さんと協力する「結果」地域との関係性を構築できるように努めているが、まだ関係性の構築には至っていない。</p> <p>2、「目標」自己評価・外部評価・目標達成計画を理解してもらい、さらなるサービス向上につなげる「内容」運営推進会議で報告し地域の方にも理解してもらう、家族会を実施しているので、その時に報告する機会を設ける「結果」報告する機会がなく、サービス向上には繋がられていない。</p> <p>3、「目標」日常的な外出支援を行い、外の空気を吸って気分転換に努めたい「内容」重度の方など外出が難しい方でも定期的な外出支援に努める、公園・花壇の水やり・ごみ捨てに行くなど外に出る機会を作り増やしていく「結果」日常的な外出支援は出来ていないが、タイミングを見て、外に出るように心がけている</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所は市内中心部から近く、生活を送しやすい場所に立地している。事業所の横には、医療連携の取れている協力病院があり、利用者や家族、職員は安心感がある。事業所では、利用者一人ひとりをかけがえのない存在として認識し、意見や意向を尊重しながら支援することができている。また、職員は礼儀正しく、明るい態度で支援するとともに、声をかけながら、利用者が衣服や飲み物などを自己決定できるよう支援している。さらに、行動的な管理者を中心として、職員同士の仲も良く、相談し合うことができ、風通しの良い、働きやすい職場環境となっている。加えて、事業所では、地域との交わりやつながりの構築に努めており、管理者は、「今後も地域と良好な関係性を築いていきたい」と考えている。</p>
--	---	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	入居時や入居後に話を聞いたり、希望・意向の把握に努めている	○	/	◎	入居前に、職員は利用者や家族と面接等を通して、課題整理総括表の「利用者及び家族の生活に対する意向」の項目を活用して思いや意向などを聞き取り、把握した内容を記録に残すことができている。また、入居後にも、日常生活の中で利用者から思いなどを聞くほか、知人や関係者から意見を聞くこともある。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	常に「本人様はどうか」という視点で検討出来ている	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	本人周りの方にも積極的に話を聞き、本人の思いを確認するように努めている	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	入居前のアセスメントや入居後の介護記録・カンファレンスの記録等で共有するようにしている	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	職員の思いではなく、本人の気持ちになって考え、本人の思いを見落とさないよう努めている	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	本人だけではなく、周りの方からも話を聞く事が出来ている	/	/	◎	職員は利用者や家族から、「これまでの生活経過」のフェイスシートを活用して、聞き取りをしている。また、以前利用していた介護支援専門員から情報を得るほか、医師の紹介状やサマリー等の情報を提供してもらうこともある。さらに、新たに得た情報は、フェイスシート等に記録を残している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	何が出来て、何が出来ない事など状態の把握に努められている	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	本人の安心できる場所・不安になってしまう事などを把握し、安心できる場所・環境を作るよう努めている	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	◎	不安の時などには何が起きているのかを考え、おの要因を考え、取り除けるようにしている	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	一人ひとりの暮らし方は違うので、その人にあった生活が送れるように、リズム等の把握に努めている	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	本人の視点で考え検討する事が出来ている	/	/	◎	月1回実施するカンファレンスを活用して、モニタリングを実施して利用者の現状確認を行うほか、利用者や家族の意見等を交えながら、利用者本人の視点で検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	本人のためには何が必要か、何が大切かなど検討し、より良く暮らして頂けるように努めている	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	課題を明らかにし、解決出来るよう取り組んでいる	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	本人に合った内容になるように努めている	/	/	/	事前に、利用者や家族の意見や意向を聞くほか、職員等で意見やアイデアを出し合いながら話し合い、計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。計画は、利用者や職員等の意見が反映された内容となっており、援助内容を詳しく記載することができている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人・家族等と話をしたり、必要に応じて他の方とも話し合い、それぞれの意見を反映した介護計画の作成に努めている	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	重度になっても本人様の慣れ親しんだ暮らし方となるように努めている	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力的体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族との協力的体制が盛り込まれていたり、地域との協力的体制は盛り込まれていない	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	介護計画の内容を把握し、カンファレンス等で共有している	/	/	○	カンファレンス等を活用して、職員は介護計画の内容を把握するとともに、介護計画は職員全員に回覧して捺印するなど、職員間で共有している。また、日々の支援の中で、介護計画のサービスの実施内容などを再確認しながら、記録に残すことができている。さらに、日常と異なる利用者の発した言葉や表情、身体状況などを詳しく記録を残すことができている。加えて、職員の気づきや工夫、アイデアなども出され、カンファレンスや申し送り時等を活用してその都度話し合いをしているものの、記録できていないこともあるため、適切に記録が残せることを期待したい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	毎月のカンファレンスで話し合い、日々の支援につなげている	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	介護記録に記入はしているが、より具体的な様子は記入出来ていない所もある	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	個別に記録は残せていない所もあるが、毎月のカンファレンスや職員同士での話し合いは出来ている	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	介護計画期間に応じて見直しを行っている	/	/	◎	介護計画は6か月に1回見直しをしている。入居後の間もない時期には、利用者の状況を確認しながら2か月程度で計画の見直しをしている。また、月1回実施するカンファレンスを活用して、利用者の現状を確認するとともに、課題等の話し合いをしている。さらに、肺炎や骨折などで入院した際には、利用者の現状を基準に捉え、新たな介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	月一回カンファレンスがあり、その時に現状の確認は行っている	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	退院後や状態の変化があった時には、見直しを行い、現状に即した計画の作成をしている	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	毎月カンファレンスの実施・退院後や状態の変化がある時には、その都度開催している	/	/	◎	事業所では、月1回カンファレンスを実施し、職員間で話し合いをしている。緊急性の高い案件がある場合には、その日の出勤職員で話し合いをしている。また、参加できなかった職員には会議ノートを確認してもらほか、重要事項は口頭で伝達している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	気兼ねなく意見が言えるように環境を整え、活発な意見交換の場となるように努めている	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	多くの職員が参加出来るようにしている	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしきみをつくっている。	◎	参加出来なかった職員に対しては、記録を見て正確に内容が伝わるようにしている	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしきみをつくっている。	◎	共有出来るように申し送りノートに記入するなど共有している	/	/	◎	日々申し送りを実施するほか、夜勤職員からの申し送り事項を記載するホーム日誌や、利用者の状況等を記載した申し送りノートを活用して伝達している。また、出勤時には申し送りノート等を確認し、確実な情報伝達につなげている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	申し送り時は確実に申し送りを行い、申し送りノートにも記入し確実に情報が伝わるようにしている	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	その日によってしたい事・やりたい事は違うので、叶えられるように努めている	/	/	/	その日にしたいことや入浴後の衣服選びなど、職員は利用者へ声をかけしながら、自己決定してもらえるよう支援している。また、事業所内には、いつでも自由に水分補給できるドリンクサーバーを設置しており、利用者は温かい物が冷たい物か、コーヒーや緑茶などを選んで飲むことができている。さらに、カラオケや洗濯物たたみなど、利用者一人ひとりの生活習慣や楽しみ、喜びなどが持てるよう、職員は見守りながら支援をしている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	職員が決めるのではなく、利用者様が自己決定出来るように、声かけやそういった場面を作っている	/	/	◎	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	その日の思いの把握・納得して暮らせるように努めている	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	一人ひとりペースが異なるので、職員の都合にならないように、一人ひとりのペースを大切にしながら支援している	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	楽しく過ごして頂けるように声かけや雰囲気を作るなど、気をつけて支援している	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	少しの変化も見逃さないようにし、表情や反応等を注意深く観察し本人の意向に添えられるように努めている	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	利用者のプライバシー・誇りを大切に、言葉かけに気をつけ行動している	○	◎	○	法人・事業所として、コンプライアンスに力を注ぐとともに、事業所理念の中には尊厳を掲げており、利用者へかけがえのない存在として認識し、一人ひとりの生活リズムを尊重した支援に取り組んでいる。また、耳の遠い利用者には、職員が耳元でゆっくりと話したり、ジェスチャーや筆談を交えながら分かりやすく伝えたりするなどの工夫をしている。さらに、居室の入室時には、利用者の名前を呼ぶなど、声をかけてから入室するほか、退出時にも、「また来ます、呼びに来ます」などの声をかけることができている。加えて、居室の不在時には、事前に職員は利用者の了承を得てから入室することもできている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	◎	トイレ等の声かけもさりげなく行うなど、配慮した対応を行うように努めている	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	扉を必ず閉めたり、声かけにも配慮して介助を行っている	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	居室はプライバシーの場所であることを理解しており、扉をノックして入ったり、出る時には声かけをしてから退室するなど配慮している	/	/	◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	理解できており順守している	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者へ助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	分からない事があれば聞いたり、互いに感謝し合う関係性を築けるよう努めている	/	/	/	職員は利用者一人ひとりの性格を把握するとともに、日々の状態も観察しながら、和やかで穏やかな生活が送れるよう、心がけた支援をしている。また、職員は利用者同士の関係性にも気を配り、テーブルの配席などの配慮もしている。さらに、些細なトラブルが発生した場合には、職員が間に入り、仲裁するなどの対応をしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	皆でともに助け合い・支え合う事の大切さを理解している	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	利用者様同士の関係性を把握し、利用者様同士の関りを大切に、支え合えるように支援するよう努めている	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者へ不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	利用者様同士がトラブルにならないように配慮している	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	◎	本人だけでなく周りの関係・環境等の把握に努めている				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人から話を聞くなどし、把握するように努めている				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	本人の大切な場所・馴染みの場所等へ出かける事は難しいが、話をするなどし、途切れないように努めている				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような環境を整えるように努めている				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	×	その日に一人ひとりの希望に沿った外に出る支援は行えていない	×	×	△	現在のコロナ禍において、事業所では外出できる機会が激減しており、県の感染警戒レベルに合わせた外出支援をしている。現在は、病院受診時の外出や玄関先での外気浴などに留まっている。重度の利用者にも同様で、玄関先で花を見るなど、可能な範囲で支援をしている。利用者家族等アンケート結果から、コロナ禍で外出制限が設けられていることもあり、家族に外出支援の理解が得られていないことが窺えるため、コロナ禍の収束後には家族の協力を得ながら外出行事を実施したり、日常的に散歩やドライブなどを取り入れたりするなど、理解が得られる取組みを期待したい。また、コロナ禍以前は、事業所周辺を散歩したり、家族の協力を得て外食や買い物などの出かけたりすることができていた。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	協力は得られず、外出支援を行えていない				
		c	重度の利用者も戸外で気持ちよく過ごせるよう取り組んでいる。	△	重度の方でも玄関の花を見に行くなど少しの時間でも外に出る機会を作れるように支援するように努めている				
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	普段いかに場所へ出かける支援は行えていない				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	認知症の症状を理解し、一人ひとりの引き起こす要因を取り除けるようにケアしている				事業所では、利用者がラジオ体操や歩行訓練、カラオケなどに取り組める場面づくりを支援するとともに、利用者の心身機能の維持に努めている。また、日々の生活の中で、職員は手すりを使用して歩行する利用者の姿を優しく見守ったり、利用者自身ができることやできそうなことを見極めて、一緒に行ったりするなどの支援に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	日常生活の中で低下しないように、維持・向上が図れるように支援している				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	安易な声かけを行わず、見守る事も大切にしながら一緒にやっている	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	本人の有する力を確認し、一人ひとりの役割・出番を把握するように努めている				洗濯物干しやたたみ、テーブル拭き、折り紙、塗り絵など、事業所では一人ひとりの残存能力を活かしながら、利用者の役割や出番づくりに取り組んでいる。また、一緒に作品づくりをしたり、カラオケなどのレクリエーションを取り入れるなど、利用者が張り合いや楽しみを持ちながら、笑顔がふれるような支援にも取り組んでいる
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	役割(洗濯物たたみ、料理作り、工作など)を持ち、一人ひとりが張りのある生活が送れるように支援している	○	△	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域の中で役割等は作れていない				

愛媛県テルウェル西日本愛松園グループホーム愛松園

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	その人の身だしなみ・おしゃれの把握に努めている				髭剃りや着替えなど、自身でしている利用者も多い。食べこぼしや口の周囲の汚れが見られた場合には、職員が気をつけながらさりげなくフォローするほか、他の利用者が声をかけて、ティッシュなどを渡すなどの支援をすることもある。また、散髪は、訪問美容を利用している。さらに、家族の協力を得て衣替えをするなど、衣服等は利用者の好みを尊重しながら、毎日同じ服を着ることがないよう支援している。加えて、洋服の新調時には、職員から「良く似合いますね」などの誉め言葉を伝えている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	◎	本人の個性・生活歴等を大切に、本人の好みに整えられるように支援している				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	職員が決めるのではなく、本人と一緒に考え、自己決定が出来るように本人の気持ちに沿って支援している				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	行事等や生活の彩りに合わせて、服装を楽しめるように努めている				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	プライドを大切に、さりげなく声かけするなどカバーしている	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	本人が希望すると所へ行けるように努めている				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	同じ服を着るのではなく、その人らしさが保てるような服装をするように努めている			◎	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	プロセスの意味・大切さを理解している				事業所では、業者の管理栄養士が立てた献立やメニューを数種類から選んで発注し、届いた食材を使用して職員が交代で調理をしている。献立には、利用者の好みである煮物が多く盛り込まれているほか、おやつには手作りの蒸しパンを提供するなどの工夫をして、利用者から喜ばれている。食前のテーブル拭きは利用者にお願ひし、手伝ってもらっている。事業所には、えびやいかなどの軽度のアレルギーを持つ利用者があり、該当食材を除去することで対応している。食器類は、使い慣れた物を使用している利用者もいる。また、職員は見守りや必要なサポートをしながら、利用者と同じ食事を食べることができている。さらに、重度の利用者にも、日中はリビングで過ごし、調理の音や匂いを感じてもらうことができている。加えて、職員間で毎日の献立の評価するとともに、業者に要望を伝えることができている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	調理や盛り付け、食器拭きを利用者とともに行うように努めている。買い物や献立作り、食材選びは出来ていない			△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	出来る事をして頂きながら、利用者の達成感につなげられるように努めている				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	一人ひとりの嫌いなもの・アレルギーは把握している				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味を取り入れている。	×	毎日の献立は決まっているので、取り入れていない			△	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いりどりや器の工夫等)	◎	安易にミキサーやキザミ食とせず、見た目も大切にしながら食事を提供している				
		g	茶碗や湯飲み、箸等を使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	自宅などで使っていた、湯呑や茶わん等を使用するように努めている			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなくやっている。	◎	皆で食事を一緒に食べ、一人ひとりの様子を観察しながら、必要に応じてサポートしている			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	声かけを大切にしながら、食事をしている	○		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	食事・水分摂取量の確認を行いながら、必要な栄養がとれるようにしている				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	食事が少ない方には好きな物を多く出したり、水分が少ない方にはこまめに水分を補給して頂くなどしている				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	×	定期的な話し合い・栄養士のアドバイスは受けていない			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	衛生管理に気をつけ、食中毒の予防に努めている				

愛媛県テルウェル西日本愛松園グループホーム愛松園

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	一人ひとり口腔ケアの重要性を理解し、日々の口腔ケアを行っている	/	/	/	毎食後、利用者は歯磨きなどの口腔ケアを実施し、職員は見守りや声かけを行うほか、必要に応じて介助をしている。現在、歯磨きを拒む利用者はいない。歯磨き後には、可能な範囲で利用者の口腔内の状況を確認しており、歯磨き等の状況を記録に残すことができている。また、利用者の口腔内に出血や炎症が見られた場合には、早期の歯科受診や往診につなげられるよう努めている。今後は、自分で歯磨きをしている利用者を含め、定期的に全ての利用者の口腔内の状況を確認するなど、早期の異常発見につながることを期待したい。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケア時に口の中の観察を行うように努めている。自立されている方の口腔内の観察は出来ない所がある	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	歯科医等からの学ぶ機会はあまりなく、活かせていない	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	食後・就寝前の手入れを適切に行えている	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	自身で出来る事はして頂きながら、口腔内を清潔に保てるように支援している	/	/	◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	口腔内に異常があればすぐに歯科医に受診・往診に来て頂くなど対応をしている	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	一人ひとりの職員が理解出来ている	/	/	/	事業所では、一人ひとりの排便や排尿の回数などの状況を記録に残して把握している。利用者の状態に応じて、適切なおむつやパッドなどの排泄用品の使用や見直しを職員間で話し合い、事前に家族に経過を説明した上で使用することができている。また、職員は排泄パターンや利用者の様子を見ながら、声かけやトイレ誘導をしている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	便秘の原因・影響を理解しており、日々の排便の確認を行っている	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄チェック表・介護記録にて確認し把握している	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	トイレでの排泄を基本とし、一人ひとりに合った支援をしている	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	カンファレンス等で話し合い、要因・誘因は何かを考え、少しでも改善できるように取り組んでいる	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	早め早めの声かけ・誘導を行い、失敗しないように努めている	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	パッドなどは本人様の思いなど考え、家族とも話し合いをしながら、何が本人様にとって良いのかを考えながら選択出来るように支援している	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	ずっと同じパッド等ではなく、一人ひとりの状態に合わせてながら、適宜使い分けている	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	自然排便を促すよう、運動(ラジオ体操・廊下を歩くなど)をしたりして、薬に頼らないように努めている	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	出来る限り入居者様の希望に添えるように入浴を行っている。	◎	/	◎	事業所では、入浴の時間帯を午後固定しているものの、湯の温度や入浴時間など、利用者一人ひとりの希望に応じて柔軟に対応している。入浴を拒む利用者を含めて、声かけなどの工夫をしながら、週2回入浴することができている。また、利用者から入浴の回数増の希望があった場合には、対応を可能としている。さらに、利用者家族等アンケート結果からも、家族は利用者が満足できる入浴支援ができていることを窺うことができる。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	◎	ゆつくりとのんびりと入居者様に合わせながら支援している	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	本人様に出来る事をしてもらいながら、不安にならず安心して入浴して頂けるように支援している	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	拒否がある方に対して、原因・理由を理解し気持ちよく入浴して頂けるように努めている	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	バイタルの確認や入浴後の水分補給をしたりし、状態の確認に努めている	/	/	/	

愛媛県テルウェル西日本愛松園グループホーム愛松園

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	一人ひとりの睡眠パターンを把握出来ている	/	/	/	事業所では、日中なるべく起きて活動的に過ごしてもらうなど、できるだけ服薬に頼らず、夜間に利用者が良眠できるよう取り組んでいる。また、不眠などが続く場合には健康面を考え、主治医に相談しながら服薬をしている利用者もいる。さらに、利用者の生活リズムを尊重した支援にも努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	日中を活動的に過ごして頂いたり、夜も安心して眠れるように寄り添い、一日のリズムを大切にしながら支援している	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	薬剤に頼らないで、眠らない原因(日々の過ごし方、数日前の過ごし方など)を確認し、検討し必要に応じて医師とも相談しながら、総合的な支援をするように努めている	/	/	◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	ソファにて休んで頂いたり、一人ひとりがゆっくり休めるように支援している	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	本人様の希望等があれば、やり取りが出来るように支援している	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	職員がすべてするのではなく、一緒にしたりするなどし、必要な支援をしている	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	遠慮する事なく、職員が声かけするなどして、いつでも電話出来るようにしている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	手紙等が届いた時には、本人様に渡すだけでなく、電話や手紙の記入を促したり、音信が途切れないように努めている	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	ご家族にも必要に応じて連絡等をして頂けるようお願いしている	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	◎	お金の所持・使う事の大切さを理解している	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	日常的には作れてはいない	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	日頃からの理解・協力は得られていない	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	一人ひとりに合った支援が出来るように、ご家族様とも相談しながら、支援するように努めている	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	所持方法や使い方について、必要に応じて本人・家族様と話すように努めている	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	毎月家族様に預り金の詳細を送っており、同意を得ている	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	ニーズに対応して、柔軟支援が出来るように取り組んでいる	◎	/	○	事業所では、利用者や家族等から、特に目立った要望は出されていないものの、何か希望があれば、既存のサービス以外にも事業所の可能な範囲で、柔軟に対応していく方針としている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	建物周囲の花壇には花を植えたり、玄関にも飾りつけ等をすることで、出入りができやすいように工夫している	◎	◎	◎	事業所のある建物の周囲には花壇が設置され、初めての来訪者も気軽に出入りすることができる。分かりやすい事業所表示等があり、地域の知名度も高い。また、1階にある玄関のボードには、来訪者等にその日の出勤職員が分かるよう、顔写真と名前を表示している。	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	家庭的な雰囲気が出せるように、気をつけている(殺風景にならないようになど)	○	○	○	共用空間の居間と廊下には、利用者がくつろげるソファやいすが置かれ、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。季節に応じて、ハロウィンやクリスマス、七夕などの飾りを壁等に掲示しており、利用者や来訪者は季節を感じることができる。また、事業所は日当たりが良く、窓から眩しい光が入らないよう、状況に合わせてカーテンを閉めるなどの対応を行い、採光のコントロールもできている。さらに、共用空間は、日々の掃除や換気が行き届き、快適な空間となっている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	トイレの匂いに気をつけたり、廊下も掃除するなどし、不快にならないように努めている	/	/	/		◎
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	七夕の時には笹を飾ったり、クリスマスの時にはツリーを飾るなどし、季節を感じて頂けるように取り組んでいる	/	/	/		○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	廊下にソファを設置し、好きな所に座り入居者様同士で会話をされたり、独りでゆっくり過ごせれるように努めている	/	/	/		/
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	◎	共用空間から見えないように扉を開めるようにし、直接見えないようにしている	/	/	/		/
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	使い慣れた物好みの物を活かし、本人様が居心地よく過ごせるように努めている	◎	/	/	ゆったりとした居室には、利用者が使い慣れた物や懐かしい物を持ち込むことができる。家族の写真などを飾りながら、利用者に応じて、穏やかに過ごせる空間づくりができています。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	安全に過ごして頂けるように、無駄な物を置かないように努めている	/	/	/	◎	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	紛らわしいものや危ないものは置かないようにしている	/	/	/	◎	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞はいつでも読めるようにしている。その他の物についてはさりげなく置くように努めている	/	/	/	◎	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	全ての職員がカギを開める事の弊害を理解している	◎	◎	◎	事業所では、年2回拘束をテーマとした内部研修を実施し、職員は鍵をかけることの弊害などの理解促進に努めている。また、日中は玄関等は解放しており、夜間は防犯のため、20時から6時まで施錠をしている。さらに、帰宅願望や外に出ようとする不穏な利用者には、職員は不穏な状態を受け止めながら、落ち着いたら外気に触れるなどの対応をしている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話している。	◎	鍵をかけない事を前提とし、施錠を望むご家族様に対しては、話し合う機会を作るように努めている	/	/	/		/
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	入居者様の様子観察や帰宅願望のある入居者様に対しての支援の検討などを行い、玄関に鍵をかけないですむよう取り組んでいる	/	/	/		/

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	一人ひとりの病歴や留意事項について把握し、その人に合った支援が出来るように努めている				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	日々の状態観察を行い、変化等がある時には、介護記録に記入するなどし、記録に残すようにしている				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	気軽に看護職に相談できる関係を築けている。主治医とも気軽に相談できる関係を築けるよう努めている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	本人・家族様が希望する医療機関を受診している		◎		
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	本人・家族様の希望を大切に、関係を築き、適切な医療を受けられるように努めている				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	受診の結果などは報告するなどし、情報共有をしている				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	情報提供は行えている				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院時には、病院関係者と密に連携をとるようにし、情報交換・相談に努めている				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	△	日頃からの病院関係者との関係づくりは行っていない				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	日々の変化等を共有・相談し連携をとっている				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	24時間いつでもではないが、必要に応じて相談できている				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	状態の変化に応じて、早期に受診・治療出来るように努めている				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	一人ひとりの目的等について理解している				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	服薬チェック表を活用するなどし、適切に服薬できるようにしている				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	薬の副作用がないか、日々の状態観察に努めている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	病院受診時などに本人の状態等の説明を行など、情報提供している				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	必要に応じて話し合いを行い、意向を確認しながら、方針を共有している	/	/	/	事業所には、「看取りに関する指針」があり、入居時に利用者や家族に説明をして、同意を得ている。また、指針は現状に合わせて、今年1月にも改正が行われている。事業所として、今までに8名の看取り介護の経験があるものの、重度化した場合には施設や病院等に転院する利用者も多い。さらに、事業所の横には、医療連携の取れている協力病院があり、利用者や家族、職員は安心感がある。利用者が重度化した場合には、利用者や家族、主治医等を交えて関係者で話し合い、方針を共有しながらチームケアに取り組んでいる。加えて、看取り支援後には、家族から感謝されるなど、安心できるような信頼関係を構築できている。職員は看取り経験することの思いは様々であるものの、経験は自身のスキルアップにつながっている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	全員で連携をとり、方針を共有出来るように取り組んでいる	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	職員の思い・力量を把握し、どこまでの支援が出来るのか見極めている	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	十分な説明を行い理解得ている	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	家族・医療関係者と連携を図りながら、チームで支援していけるように努めている	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	家族様の思いなどを確認しながら、心理的支援を行っている	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	感染症について年2回勉強会を行っており、学ぶ機会を作っている	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	日頃からの訓練は出来ていないが、予防を徹底し迅速に対応できるように努めている	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	インターネットを通じて、最新情報が入手できるように努めている	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	地域の感染症発生状況の把握に努め、随時対応出来るようにしている	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	職員の手洗いやうがいの徹底は出来ている。利用者・来訪者等についても手指消毒等を行うなどしている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	職員だけでなく家族様も一緒に本人様を支えられるような関係を築くように努めている	/	/	/	現在のコロナ禍において、事業所では、夏祭りや敬老会などの行事やイベントを、静かに規模を縮小して開催しており、家族の参加を得て開催することはできていない。県の警戒レベルも緩和され、家族との面会は、2名まで、15分間の制限を設けて対応できるようになってきている。また、事業所には、家族会があるものの、現在の状況において、以前のように開催することは難しくなっている。さらに、毎月の請求書に、お便りを同封して家族に送付するとともに、電話連絡時にも家族とコミュニケーションを図っている。加えて、職員の異動や退職、事業所の行事予定等は、年4回発行するホーム便り等に掲載し、報告をすることができている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	居室でゆっくり過ごされたり、ソファに一緒に座られ話をしたり、居心地よく過ごされるようにしている	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	行事への参加を促したりし、ホームの活動に参加出来るように努めている	○	/	△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	面会の時や電話でお話する時に日常の様子等を伝えている。また毎月お便り(日々の様子など)の送付を行っている	◎	/	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	◎	家族様が不安にならないように、コミュニケーションをとり、内容等の把握に努め、報告が出来るようにしている	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	認知症の症状・などを説明し理解に努め、良い関係が築けるように努めている	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	年4回GH便りを作成し、職員の退職や行事の内容等を報告し、事業所の事を伝えるようにしている	◎	/	◎	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	家族同士が交流が持てるように、家族会の実施をしていたが、現在は出来ない	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	一人ひとりに起こり得るリスクについては、説明し話しを行い、対策等を考え、抑圧感のない暮らしを大切にしよう努めている	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	来訪時にはコミュニケーションをとり、積極的に話をするなどしている	/	/	◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	具体的に説明を行い、理解・納得を得られている	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退居となった時には、納得のいくような退居先となるように支援している	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	具体的に説明し同意を得ている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
Ⅲ. 地域との支え合い										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	×	事業所の設立段階からの機会は作れておらず、理解を図れていない所もある	/	◎	/	事業所では町内会に入会しており、地域における事業所の知名度も高くなっている。前回の外部評価以降に、目標達成計画に取り上げ、事業所として地域との関係性をより深めていこうとした矢先に、新型コロナウイルス感染症が流行し始めたため、コロナ禍の収束を見極めながら、交流できる取組みを予定している。今後は、回覧板等を活用して地域行事を把握し、利用者と一緒に参加して交流をするなど、利用者と職員が一緒に、地域とかかわれるような工夫を期待したい。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	×	日頃からの関係を深める働きかけは出来ていない	/	△	○		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	見守ったり、支援してくれる地域の方は増えていない	/	/	/		/
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	気軽に立ち寄り遊びには来ていない	/	/	/		/
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	日常的な付き合いは出来ていない	/	/	/		/
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	働きかけは出来ていない	/	/	/		/
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	地域資源の把握に努めている。安全で暮らすことができるように努めている	/	/	/		/
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	×	日頃からの理解を深める働きかけ、取り組みは行えていない	/	/	/		/
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	毎回、同じメンバーでの開催となってしまっている	/	○	○	現在のコロナ禍において、外部からの集合形式の会議は実施しておらず、利用者や職員のみで運営推進会議を開催している。会議では、事業所の活動状況や評価などを報告するほか、利用者や職員等からの主な要望や助言を行うとともに、その回答が主な内容となっている。また、家族には、会議の報告書を送付している。今後は、利用者や職員のみでの会議においても、事前に会議の参加メンバーに資料を送付して意見をもらうなど、コロナ禍の会議においても工夫した有意義な会議となることを期待したい。	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	報告する機会を作り、報告しサービスの質の向上に努めている	/	/	◎		
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	会議で出た意見は、日々の取り組み・サービス向上に活かし、その結果等は会議にて報告するようにしている	/	◎	○		
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	×	同じ時間での開催となっており、配慮・工夫は出来ていない	/	/	◎		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	議事録を公表している	/	/	/		

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	日々の支援が理念に基づいたものとなるように、共通認識を持ち、日常的に取り組むように努めている	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	理念の掲示はしているが、分かりやすく伝える事は出来ていない	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	法人内の研修・法人外の研修への参加を積極的に受けられるよう取り組んでいる	/	/	/	事業所の施設長は、週3回程度来訪があり、管理者や職員の話しに耳を傾けてくれている。事業所では、定期的に研修を実施したり、外部研修に参加したりするなど、職員のスキルアップに努めている。また、職員は毎年目標を立て、管理者は実践できているか評価をするなど、OJT(職場内教育等)にも取り組んでいる。また、事業所では、職員が希望休や有給休暇を取得することができるほか、良好な職員同士の関係もあり、働きやすい職場環境づくりができています。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	定期的なOJTの実施を行い、職員一人ひとりのスキルアップにつなげている	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	風通しの良い職場となるように、環境整備・条件の整備に努めている	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	同業者との交流をする機会はまだ作れていない	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	年二回の面談を行うなど職員のストレス軽減に努めている	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	具体的な行為なのか理解している	/	/	/	職員は、内部研修で虐待防止等を学んでおり、職員は理解している。また、職員同士の仲が良く、不適切なケアを発見した場合には、相談や注意し合える関係づくりができています。特に、言葉づかいには気を配り、職員は意識した言動に努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	カンファレンス時などに話をしたりしている	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	職員一人ひとりが注意を払い、発見した時の対応・手順について理解出来ている	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	日々の業務の中で一人ひとりの状態を確認しながら、注意している	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	正しく理解出来ている	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	カンファレンス・勉強会や身体拘束委員会の中で話し合う機会を作っている	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	身体拘束に対する弊害を理解して頂き、話し合いを行いながら理解を図っている	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	全ての職員が理解出来ていない所がある				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	必要に応じて情報提供・相談にのれるように努めている				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	連携体制を築けるように努めている				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	マニュアル作成し周知している				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	定期的な訓練は行えていないが、実践力を身につけるよう努めている				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハット発生時は各職員に周知し、カンファレンス時などに話す機会を作ったり、検討している				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	カンファレンス時に話し合ったり、日々の業務の中でも話し合い、一人ひとりのリスクを把握し事故防止に向けて取り組んでいる				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルを作成しており、各職員に周知している				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	苦情があった時には手順に沿って速やかに対応するように努めている				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	速やかに回答するようにし、話し関係性を作れるように努めている				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	個別に話を聞くなどし、要望等がないか確認するように努めている			◎	日々の会話の中から、職員は利用者の希望や意見を聞くほか、汲み取るよう努めている。家族には、コロナ禍もあり電話連絡時に意見や要望を聞き取ることが多くなっている。また、職員は管理者と話しやすく、意見や要望を伝えることができている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	菜園時などに話を聞くなどし、伝えられような機会を作るように努めている	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	必要に応じて適宜行っている				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	意見や要望・提案を聞く機会を作っている				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	一人ひとりと必要に応じて話す機会を設けるようにし、検討している			○	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	自己評価に取り組んでいる				外部評価のサービスの評価結果は、運営推進会議を活用して報告をしているほか、家族にも送付して報告をしている。コロナ禍の収束後には、会議の参加メンバーや家族に取組み状況の確認などのモニターを呼びかけたり、家族に評価に対する意見をもらったりするなど、評価を再確認できる取組みの実施を期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	課題等を明らかにし、意識統一・学習の機会となるように努めている				
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	事業所全体で取り組むように努めている				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	報告を行い、今後の取り組みに活かせるように努めている	△	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	確認できていない時もある				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	◎	マニュアルを作成しており、各職員周知している				事業所では、法定の避難訓練を実施している。コロナ禍の収束後には、事業所として、地域の町内会や公民館とのつながりをより深めながら、地区の防災訓練に参加協力をしたり、事業所の訓練に地域住民や家族の参加を呼びかけたり、地域と災害時の協力体制を話し合う機会を設けるなど、少しずつ災害時における地域との連携が図れることを期待したい。また、今後管理者は、家族に事業所の防災計画や災害時の対応など、丁寧に伝えていくことを予定している。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	定期的に訓練を行っており、安全に避難出来るように取り組んでいる				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常食用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	定期的に行えている				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	日頃からの連携は図れていない。	△	◎	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	×	取り組めていない				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	×	取り組めていない				運営推進会議の開催などを通して、市行政や地域包括支援センター等と連携をしている。コロナ禍以前は、中学生の職場体験に協力することができていたが、現在は中止となっている。相談は少ないものの、事業所の見学希望などの相談には快く応じている。今後は、事業所において、地域の高齢者や認知症の方、家族への相談支援ができるということを回覧板等を活用して周知するなど、少しずつ地域に情報が発信できることを期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	行っていない		×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	×	活用できていない				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	協力出来ていない				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	×	行っていない			○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

- (1)ケアマネジメント
- (2)日々の支援
- (3)生活環境づくり
- (4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 10 月 22 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 16名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	1名	

※事業所記入

事業所番号	3870103037
事業所名	グループホーム愛松園
(ユニット名)	みかん
記入者(管理者)	
氏名	西上 佳子
自己評価作成日	令和 3 年 9 月 25 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】</p> <p>1. ゆつくり、一緒に、楽しく、家庭的で温かな雰囲気でご過ごして頂きます。</p> <p>2. 自立し生きがいを持った生活を支援します。</p> <p>3. 愛され、尊敬され、認められ、人間としての尊厳を大切にします。</p> <p>4. 安心・安全な生活の提供に努めます。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>1. 「目標」地域に事業所が認知され、関係性を構築する「内容」回覧板を事業所へ回してもらえよう願う、地域の行事への参加、運営推進会議の地域の参加者を増やすよう、民生委員さんと協力する「結果」地域との関係性を構築できるように努めているが、まだ関係性の構築には至っていない。</p> <p>2. 「目標」自己評価・外部評価・目標達成計画を理解してもらい、さらなるサービス向上につなげる「内容」運営推進会議で報告し地域の方にも理解してもらう、家族会を実施しているので、その時に報告する機会を設ける「結果」報告する機会がなく、サービス向上には繋がられていない。</p> <p>3. 「目標」日常的な外出支援を行い、外の空気を吸って気分転換に努めたい「内容」重度の方など外出が難しい方でも定期的な外出支援に努める、公園・花壇の水やり・ごみ捨てに行くなど外に出る機会を作り増やしていく「結果」日常的な外出支援は出来ていないが、タイミングを見て、外に出るよう心がけている</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所は市内中心部から近く、生活をしやすい場所に立地している。事業所の横には、医療連携の取れている協力病院があり、利用者や家族、職員は安心感がある。事業所では、利用者一人ひとりをかけがえのない存在として認識し、意見や意向を尊重しながら支援することができている。また、職員は礼儀正しく、明るい態度で支援するとともに、声をかけながら、利用者が衣服や飲み物などを自己決定できるよう支援している。さらに、行動的な管理者を中心として、職員同士の仲も良く、相談し合うことができ、風通しの良い、働きやすい職場環境となっている。加えて、事業所では、地域との交わりやつながりの構築に努めており、管理者は、「今後も地域と良好な関係性を築いていきたい」と考えている。</p>
---	---	---

評価結果表

項目No.	評価項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える								
(1)ケアマネジメント								
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	<p>a 利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。</p> <p>b 把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。</p> <p>c 職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。</p> <p>d 本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。</p> <p>e 職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。</p>	◎	<p>アセスメント時に本人の思い・意向を聞いている。日常会話時でも努めている</p> <p>日常生活の中で本人の行動・言葉を丁寧に観察し検討している</p> <p>面会に来られた時や電話で近況報告をする時に話し合っている</p> <p>本人の言った言葉や思いをケース記録に書き職員皆で共有している</p> <p>介護者側中心の介護になっていないか確認し、本人中心の視点でとらえるように支援している</p>	○	/	◎	<p>入居前に、職員は利用者や家族と面接等を通して、課題整理総括表の「利用者及び家族の生活に対する意向」の項目を活用して思いや意向などを聞き取り、把握した内容を記録に残すことができている。また、入居後も、日常生活の中で利用者から思いなどを聞くほか、知人や関係者から意見を聞くこともある。</p>
2	これまでの暮らしや現状の把握	<p>a 利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。</p> <p>b 利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。</p> <p>c 本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。</p> <p>d 不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)</p> <p>e 利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。</p>	◎	<p>家族やその他の方が面会に来られた時や本人との日常会話の中で聞きとれるよう努めている</p> <p>日常生活の中で出来る事・出来ない事を把握し出来る事を見つけ出して増やしていく支援をしている</p> <p>ケース記録やカンファレンス、日常生活のその時々で皆と情報を共有している</p> <p>利用者に寄り添い、話を傾聴し表情を観察しながら把握に努めている</p> <p>毎日の介護記録を記録し目を通すことにより把握している</p>	/	/	◎	<p>職員は利用者や家族から、「これまでの生活経過」のフェイスシートを活用して、聞き取りをしている。また、以前利用していた介護支援専門員から情報を得るほか、医師の紹介状やサマリー等の情報を提供してもらうこともある。さらに、新たに得た情報は、フェイスシート等に記録を残している。</p>
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	<p>a 把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。</p> <p>b 本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。</p> <p>c 検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。</p>	◎	<p>毎月のケアカンファレンスで皆と話し合い検討している</p> <p>毎月のケアカンファレンスで様々な状況を踏まえ、何が必要なか皆で話し合っている</p> <p>毎月のケアカンファレンス時に検討した支援をより良く実施するため、妨げる問題点を皆で話し合っている</p>	/	/	◎	<p>月1回実施するカンファレンスを活用して、モニタリングを実施して利用者の現状確認を行うほか、利用者や家族の意見等を交えながら、利用者本人の視点で検討している。</p>

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の思いや意向をきちんとアセスメントし、皆で話し合い検討している	/	/	/	事前に、利用者や家族の意見や意向を聞くほか、職員等で意見やアイデアを出し合いながら話し合い、計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。計画は、利用者や職員等の意見が反映された内容となっており、援助内容を詳しく記載することができている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人の思いを一緒に聞き家族にも情報を頂きながら、皆で話し合い作成している	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	日常生活の場で本人の言葉・行動を観察し皆で情報を共有し話しあっている	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族等は面会を通して協力して頂いているが、地域の人たちとの協力体制は限られている	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	日々支援内容を確認しながら、職員間で共有している	/	/	○	カンファレンス等を活用して、職員は介護計画の内容を把握するとともに、介護計画は職員全員に回覧して捺印するなど、職員間で共有している。また、日々の支援の中で、介護計画のサービスの実施内容などを再確認しながら、記録に残すことができている。さらに、日常と異なる利用者の発した言葉や表情、身体状況などを詳しく記録を残すことができている。加えて、職員の気づきや工夫、アイデアなども出され、カンファレンスや申し送り時等を活用してその都度話し合いをしているものの、記録できていないこともあるため、適切に記録が残せることを期待したい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	ケアカンファレンスでモニタリングをし状況確認を行い、問題点があれば話し合って日々の支援につなげている	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	利用者の言葉や行動・身体状況の具体的内容を個別にケース記録に記録している	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎	利用者の日常の生活を観察し気づいた事を個別にケース記録に記録している	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	期間に応じて見直しを行っている	/	/	◎	介護計画は6か月に1回見直しをしている。入居後の間もない時期には、利用者の状況を確認しながら2か月程度で計画の見直しをしている。また、月1回実施するカンファレンスを活用して、利用者の現状を確認するとともに、課題等の話し合いをしている。さらに、肺炎や骨折などで入退院した際には、利用者の現状を基準に捉え、新たな介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月のケアカンファレンスで利用者一人ひとりの現状を確認している	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	日常生活の中での過ごし方を観察し、何か変化があればその都度見直し作成している	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	月1回定期的に開催している。緊急時はその場にいる職員等で話し合っている	/	/	◎	事業所では、月1回カンファレンスを実施し、職員間で話し合いをしている。緊急性の高い案件がある場合には、その日の出勤職員で話し合いをしている。また、参加できなかった職員には会議ノートを確認してもらいほか、重要事項は口頭で伝達している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	批判・指摘にならないよう傾聴し話しやすい自由な雰囲気作りに努めている	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	勤務割表をもとに夜勤者以外全ての職員が参加出来るように工夫している	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	カンファレンスの記録ノートをもとに特に重要な事は説明している	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	ホーム日誌や申し送りノートに記入し共有できるようにしている	/	/	◎	日々申し送りを実施するほか、夜勤職員からの申し送り事項を記載するホーム日誌や、利用者の状況等を記載した申し送りノートを活用して伝達している。また、出勤時には申し送りノート等を確認し、確実な情報伝達につなげている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	ホーム日誌や申し送りノート・口頭などで全ての職員に伝わるようにしている	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	利用者に寄り添いながら話を傾聴し出来る限り叶えられるよう努めている	/	/	/	その日にしたいことや入浴後の衣服選びなど、職員は利用者に声をかけしながら、自己決定してもらえるよう支援している。また、事業所内には、いつでも自由に水分補給できるドリンクサーバーを設置しており、利用者は温かい物が冷たい物か、コーヒーや緑茶などを選んで飲むことができている。さらに、カラオケや洗濯物たみなど、利用者一人ひとりの生活習慣や楽しみ、喜びなどが持てるよう、職員は見守りながら支援をしている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	日常生活の中で常に声かけし選択肢の機会を作るように努めている	/	/	◎	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	話を傾聴しながら選択しやすく出来るように話しかけ、納得しながら暮らせるよう支援している	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	職員中心の介護になっていないか、皆で確認しあいながら、本人のペースに合わせて支援している	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	職員が明るい雰囲気楽しく利用者とし、和やかな雰囲気作りをしている	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	話しかけながら常に表情を観察し声かけしながら、ケアを行い全身の反応を観察している	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	声かけを行う時は相手の事を尊重した声かけを行っている。利用者への言葉かけについてはケアカンファレンス時でも話している	○	◎	○	法人・事業所として、コンプライアンスに力を注ぐとともに、事業所理念の中には尊厳を掲げており、利用者をかけがえのない存在として認識し、一人ひとりの生活リズムを尊重した支援に取り組んでいる。また、耳の遠い利用者には、職員が耳元でゆっくりと話したり、ジェスチャーや筆談を交えながら分かりやすく伝えたりするなどの工夫をしている。さらに、居室の入室時には、利用者の名前を呼ぶなど、声をかけてから入室するほか、退出時にも、「また来ます、呼びに来ます」などの声をかけることができている。加えて、居室の不在時には、事前に職員は利用者の了承を得てから入室することもできている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	一人ひとりその人に合った対応をするよう努め、周りに目を配りながら声かけを行っている	/	/	/	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら助助を行っている。	◎	自立できる事を見つけさせりなく観察し、自尊心を傷つけないよう心がけている	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	必ず利用者に声をかけ許可を得て出入りしている	/	/	◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	職員会議などで周知、徹底している	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	介護する人・される人という区別ではなく、ひとつ屋根の下で暮らす家族のつもりで援助している	/	/	/	職員は利用者一人ひとりの性格を把握するとともに、日々の状態も観察しながら、和やかで穏やかな生活が送れるよう、心がけた支援をしている。また、職員は利用者同士の関係性にも気を配り、テーブルの配席などの配慮もしている。さらに、些細なトラブルが発生した場合には、職員が間に入り、仲裁するなどの対応をしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	利用者一人ひとりが役割のある生活を送る事。互いを支え合っていると理解している	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	一人ひとりの状態が違うので性格や相性などを把握し良い関係が保てるように考えている。食堂の座席などに気を配り、職員も入る事により孤立されないよう気をつけている	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	職員が間に入り互いの思いを聞き、その場で解消できるよう努めている	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	利用者の面会に来られた方との会話の中から把握できるよう努めている				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	利用者の面会に来られた方との会話の中から把握できるよう努めている				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	入居されれば馴染みの場所へ出かけるなどの支援は難しいが、会話の中で昔の話をするなど忘れないよう努めている				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	面会に来られた時は心良く声かけし利用者さんと楽しく過ごして頂けるよう気を配っている				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	散歩や買い物など外に出る時間を作るように努めている	×	×	△	現在のコロナ禍において、事業所では外出できる機会が激減しており、県の感染警戒レベルに合わせた外出支援をしている。現在は、病院受診時の外出や玄関先での外気浴などに留まっている。重度の利用者にも同様で、玄関先で花を見るなど、可能な範囲で支援をしている。利用者家族等アンケート結果から、コロナ禍で外出制限が設けられていることもあり、家族に外出支援の理解が得られていないことが窺えるため、コロナ禍の収束後には家族の協力を得ながら外出行事を実施したり、日常的に散歩やドライブなどを取り入れたりするなど、理解が得られる取組みを期待したい。また、コロナ禍以前は、事業所周辺を散歩したり、家族の協力を得て外食や買い物などの出かけたりすることができていた。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	家族の協力を得ながら外出支援をすすめているが、地域の人の協力は出来ていない				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	長時間は難しいので、短い時間外の空気を感じて頂けるよう努めている				
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	家族の協力はありますが、地域の方の協力は出来ていない				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	職員間で情報を共有し話し合って要因を探しだしながらケアを行っている				事業所では、利用者がラジオ体操や歩行訓練、カラオケなどに取り組める場面づくりを支援するとともに、利用者の心身機能の維持に努めている。また、日々の生活の中で、職員は手すりを使用して歩行する利用者の姿を優しく見守ったり、利用者自身ができることやできそうなことを見極めて、一緒に行ったりするなどの支援に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	日常生活の中で出来る事・出来ない事を見極めながら、出来る事を増やしていくよう取り組んでいる				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行動できるようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	本人のペースに合わせてながらあせらず、ゆっくりと一緒に行動している	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	日常生活の中で本人が得意とする事や表情を観察し把握している				洗濯物干しやたみ、テーブル拭き、折り紙、塗り絵など、事業所では一人ひとりの残存能力を活かしながら、利用者の役割や出番づくりに取り組んでいる。また、一緒に作品づくりをしたり、カラオケなどのレクリエーションを取り入れるなど、利用者が張り合いや楽しみを持ちながら、笑顔がふれるような支援にも取り組んでいる
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	何が出来なくなったのかしっかりと把握し、出来る事を維持していくよう取り組んでいる	○	△	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域の中で役割が持てる支援は出来ていない				

愛媛県テルウェル西日本愛松園グループホーム愛松園

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしやれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしやれについて把握している。	◎	本人の個性を尊重し何が好みなのか日々の生活の中で観察し把握している				髭剃りや着替えなど、自身でしている利用者も多い。食べこぼしや口の周囲の汚れが見られた場合には、職員が気をつけながらさりげなくフォローするほか、他の利用者が声をかけて、ティッシュなどを渡すなどの支援をすることも。また、散髪は、訪問美容を利用している。さらに、家族の協力を得て衣替えをするなど、衣服等は利用者の好みを尊重しながら、毎日同じ服を着ることがないよう支援している。加えて、洋服の新調時には、職員から「良く似合いますね」などの誉め言葉を伝えている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	◎	自分が気に入った服を自分で選んで着られている				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	本人の好みを把握し選択しやすいよう職員と一緒に考えている				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	その時々にあった服を職員と一緒に選び楽しめるよう支援している				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	否定せず同調しながらさりげなくカバーしている	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるよう努めている。	×	美容師が訪問、または家族さんがカットしている				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	家族から情報を頂きながら、本人らしさが保てるよう支援して			◎	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	職員会で話し合い理解している				事業所では、業者の管理栄養士が立てた献立やメニューを数種類から選んで発注し、届いた食材を使用して職員が交代で調理をしている。献立には、利用者の好みである煮物が多く盛り込まれているほか、おやつには手作りの蒸しパンを提供するなどの工夫をして、利用者から喜ばれている。食前のテーブル拭きは利用者にお願ひし、手伝ってもらっている。事業所には、えびやいかなどの軽度のアレルギーを持つ利用者があり、該当食材を除去することで対応している。食器類は、使い慣れた物を使用している利用者もいる。また、職員は見守りや必要なサポートをしながら、利用者と同じ食事を食べることができている。さらに、重度の利用者にも、日中はリビングで過ごし、調理の音や匂いを感じてもらうことができている。加えて、職員間で毎日の献立の評価するとともに、業者に要望を伝えることができている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	利用者が出来る事は職員と一緒にやっている			△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	最後は必ず感謝の言葉かけを行い、達成感につなげている				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入居前にアレルギーの有無は把握している。会話や食べ残しを観察し把握している				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	カロリー計算された献立が食材と一緒に業者から届いている。季節感がある献立・食材も入っている			△	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いらずや器の工夫等)	○	ご飯をやわらかくしたり、彩りよく盛り付け、見た目も食欲が出るよう努めている				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	入居時に今まで使っていた物を用いている			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなくやっている。	◎	同じ食卓で同じものを食べながら、一人ひとりの食事のとり方を観察しサポートしている			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	常に声をかけながら、本人のペースに合わせて、食べやすいよう工夫しながら介助している	○		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	毎食の食事量・水分摂取量を記録し、一人ひとりの状態を把握できるよう努めている				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	本人が好んで食べられる物や飲み物を家族さんの協力を得ながら提供し摂取出来るように努めている				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	職員会やその時々で話し合いをしている			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	定期的に衛生講習会などで勉強し予防に努めている				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	職員会で研修したり話し合い理解している				毎食後、利用者は歯磨きなどの口腔ケアを実施し、職員は見守りや声かけを行うほか、必要に応じて介助をしている。現在、歯磨きを拒む利用者はいない。歯磨き後には、可能な範囲で利用者の口腔内の状況を確認しており、歯磨き等の状況を記録に残すことができています。また、利用者の口腔内に出血や炎症が見られた場合には、早期の歯科受診や往診につなげられるよう努めている。今後は、自分で歯磨きをしている利用者を含め、定期的に全ての利用者の口腔内の状況を確認するなど、早期の異常発見につながることを期待したい。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	介助している利用者は把握出来ているが、自立している利用者の把握は出来ていない			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科医や歯科衛生士等からアドバイスを受け、日常の支援に活かしている				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	一人ひとり見守り介助確認しながら支援している				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	毎食後一人ひとりに声かけ、口腔ケアを行い支援している			◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	本人からの訴えや不具合があればすぐ、歯科医に往診依頼し受診している				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	トイレで排泄する事を基本としており、状況に応じて利用者、家族と話し合い理解するよう努めている				事業所では、一人ひとりの排便や排尿の回数などの状況を記録に残して把握している。利用者の状態に応じて、適切なおむつやパッドなどの排泄用品の使用や見直しを職員間で話し合い、事前に家族に経過を説明した上で使用することができている。また、職員は排泄パターンや利用者の様子を見ながら、声かけやトイレ誘導をしている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	カンファレンス等で話し合い理解している				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	一人ひとりの排泄チェック表を確認しながら把握するよう努めている				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	本人の訴えや声かけにてトイレ介助を行い、その時々状態を把握し見直しできるように支援している	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	排便間隔など確認しながら腹部マッサージなど改善に向け取り組みを行っている				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	利用者一人ひとりの排泄のリズムを把握し、こまめなトイレの声かけ、誘導を行っている				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるように支援している。	○	夜間は大きなパッドを使用するなど、本人・家族と話し合い選択出来るよう支援している				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	◎	便のやわらかい時や外出する時など状態に合わせて使い分けしている				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	状況に応じて水分、乳製品の摂取や運動をすすめ自然排便出来るように支援している				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	何時ごろ入浴したいか本人に聞き、個々に応じた入浴出来るように努めている	◎		◎	事業所では、入浴の時間帯を午後固定しているものの、湯の温度や入浴時間など、利用者一人ひとりの希望に応じて柔軟に対応している。入浴を拒む利用者を含めて、声かけなどの工夫をしながら、週2回入浴することができている。また、利用者から入浴の回数増の希望があった場合には、対応を可能としている。さらに、利用者家族等アンケート結果からも、家族は利用者が満足できる入浴支援ができていることを窺うことができる。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	◎	利用者のベースに合わせて支援している				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	楽しく会話をし出来る事を見つげながら、安心して入浴出来るよう支援している				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	入浴拒否された時は時間をおいて再度声かけしたり、違う職員が声をかけるなど工夫している				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	バイタルチェックを行い、その時の健康状態を把握し、入浴後も水分補給して頂きながら、状態を確認している				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	ケース記録を確認し把握するよう努めている	/	/	/	事業所では、日中になるべく起きて活動的に過ごしてもらうなど、できるだけ服薬に頼らず、夜間に利用者が良眠できるよう取り組んでいる。また、不眠などが続く場合には健康面を考え、主治医に相談しながら服薬をしている利用者もいる。さらに、利用者の生活リズムを尊重した支援にも努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	声をかけて日中は活し一日の生活リズムが整えられるよう取り組んでいる	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	安易に服薬していない。医師と相談しながら支援を行っている	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	一人ひとりのその時の状態を把握し、その時の状態に応じて居室にて休んで頂いている	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	本人自ら電話をし家族などとお話し出来るよう支援している	/	/	/	事業所では、日中になるべく起きて活動的に過ごしてもらうなど、できるだけ服薬に頼らず、夜間に利用者が良眠できるよう取り組んでいる。また、不眠などが続く場合には健康面を考え、主治医に相談しながら服薬をしている利用者もいる。さらに、利用者の生活リズムを尊重した支援にも努めている。
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	家族から電話があった際は代わったりして支援している	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	訴えがあればいつでも電話出来るよう配慮している	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	すぐに本人に手渡し必要があれば家族さんにも連絡し、音信がとれるように工夫している	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	いつでも電話して良いか確認し了解を得て協力している	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	◎	ご本人自身お金を持っている人もおり、使う事の意味や大切さを理解している	/	/	/	事業所では、利用者や家族等から、特に目立った要望は出されていないものの、何か希望があれば、既存のサービス以外にも事業所の可能な範囲で、柔軟に対応していく方針としている。
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	外出出来た時にはご自身でお金を使えるよう努めている	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	買い物先の理解や協力を得る働きかけはほとんど出来ていない	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	家族と話し合いながら本人の希望に添えるよう支援している	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	その時々々の状況に応じて話し合っている	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	毎月現金残高領収書等出納帳を作成、送付し同意を得ている	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	その時々々の状況に応じて家族・本人・職員と話し合い、その状態にあった支援が出来るよう取り組んでいる	◎	/	○	事業所では、利用者や家族等から、特に目立った要望は出されていないものの、何か希望があれば、既存のサービス以外にも事業所の可能な範囲で、柔軟に対応していく方針としている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	張り紙や職員の顔写真を貼るなど入りやすい工夫している	◎	◎	◎	事業所のある建物の周囲には花壇が設置され、初めての来訪者も気軽に出入りすることができる。分かりやすい事業所表示等があり、地域の知名度も高い。また、1階にある玄関のボードには、来訪者等にその日の出勤職員が分かるよう、顔写真と名前を表示している。	
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	家庭的な雰囲気がでるよう飾りつけなどに気をつけている	○	○	○	共用空間の居間と廊下には、利用者がくつろげるソファやいすが置かれ、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。季節に応じて、ハロウィンやクリスマス、七夕などの飾りを壁等に掲示しており、利用者や来訪者は季節を感じることができる。また、事業所は日当たりが良く、窓から眩しい光が入らないよう、状況に合わせてカーテンを閉めるなどの対応を行い、採光のコントロールもできている。さらに、共用空間は、日々の掃除や換気が行き届き、快適な空間となっている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日掃除も行っており臭いなどの配慮も出来ている					◎
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	壁にその季節に合った飾りをしたり、季節に合った食べ物を出したり、行事などの飾りもおいている					○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	廊下にソファを設置し一人ゆっくり過ごせるようにしている					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	◎	扉を開けばなしにせず、閉めておくよう努めている					
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	本人が使い慣れた物を持参してもらっている。また昔の写真を貼り、居心地よく過ごせるよう努めている	◎			ゆったりとした居室には、利用者が使い慣れた物や懐かしい物を持ち込むことができる。家族の写真などを飾りながら、利用者に応じて、穏やかに過ごせる空間づくりができています。	
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	居室に段差を作らないようにしたり、出来るだけ自立した生活が送れるよう手すりや浴槽に工夫している			◎	トイレや浴室、居室など、利用者が迷うことのないよう、分かりやすく表示をしている。また、職員が使用する丸いすなどは、利用者が移動する際の動線の妨げにならないよう、必要時以外は片付けるなど、安全面にも配慮している。さらに、新聞等が置かれ、利用者は自由に見ることができる。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	落ち着いた雰囲気やだせるよう工夫しているが、トイレの照明が自動のため混乱する利用者がいる					
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	長い廊下に数個のイスを置き自由に座れるようにしている。新聞・雑誌などはテーブルの上に置き、いつでも見られるようにしている					
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	鍵をかける事によって不安感や落ち着きなくなる事があるのは理解出来ている	◎	◎	◎	事業所では、年2回拘束をテーマとした内部研修を実施し、職員は鍵をかけることの弊害などの理解促進に努めている。また、日中は玄関等は解放しており、夜間は防犯のため、20時から6時まで施錠をしている。さらに、帰宅願望や外に出ようとする不穏な利用者には、職員は不穏な状態を受け止めながら、落ち着いたら外気に触れるなどの対応をしている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	鍵をかける事について話し安全の確保に努めている					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	玄関には鍵をかけていないが、エレベーターには鍵をかけてしまっている					

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	入居時にはアセスメントを見て把握するよう努めている				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	日々の状態を把握し変化や異常がないか観察し記録している				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	連携をとりながら相談しやすい環境作りを努めている				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	希望に沿った医療機関で受診出来ている		◎		
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	適切な医療が受けられるよう、かかりつけ医との関係を大切にしている				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	本人・家族と話し合い受診結果等は家族に報告している				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時にはこまかい所まで情報提供を行っている				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	こまめに連携をとったり相談し早期に退院出来るよう努めている				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	関係性を作れるよう努めている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	気づいた事や変化があれば記録し、看護師と連携をとっている				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	何かあればいつでも連絡可能な体制をとっている				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	状態の変化があれば看護師に相談するなどし早めの対応をとっている				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	△	薬の処方箋は医療関係ファイルに綴じているが、すべて把握出来ていない				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	一人ひとり服薬チェック表で確認しながら、薬の飲み忘れ・誤薬を防ぐ取り組みを行っている				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	状態の変化がないか毎日確認している				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	状態に変化があれば記録し情報提供して相談している				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	状態変化の段階ごとに話す機会を持ち意向の確認を行っている	/	/	/	事業所には、「看取りに関する指針」があり、入居時に利用者や家族に説明をして、同意を得ている。また、指針は現状に合わせて、今年1月にも改正が行われている。事業所として、今までに8名の看取り介護の経験があるものの、重度化した場合には施設や病院等に転院する利用者も多い。さらに、事業所の横には、医療連携の取れている協力病院があり、利用者や家族、職員は安心感がある。利用者が重度化した場合には、利用者や家族、主治医等を交えて関係者で話し合い、方針を共有しながらチームケアに取り組んでいる。加えて、看取り支援後には、家族から感謝されるなど、安心できるような信頼関係を構築できている。職員は看取り経験することの思いは様々であるものの、経験は自身のスキルアップにつながっている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	関りのあるすべての人に対して情報共有しながら確認している	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	職員の思い・力量を把握し、どこまでの支援が出来るのか見極めている	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	事業所としての対応方針については話をする機会を作り理解を得ている	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	相談や連携をとりやすい体制を整えていくように努めている	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	家族とも密にコミュニケーションをとり心理的支援を行っている	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	勉強会を行っており定期的に学ぶ機会を作っている	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	日頃からの訓練は出来ていないが、予防・対応が出来るように努めている	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	インターネットを通じて最新の情報が得られるようにしている	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	情報は出来るだけ収集し対応出来るようにしている	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなども徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	エレベーター横に消毒液・体温計を設置、手洗い・うがいなども徹底して行っている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	来園された時などに近況報告を交えながらお話しをし、築いていけるように努めている	/	/	/	現在のコロナ禍において、事業所では、夏祭りや敬老会などの行事やイベントを、静かに規模を縮小して開催しており、家族の参加を得て開催することはできていない。県の警戒レベルも緩和され、家族との面会は、2名まで、15分間の制限を設けて対応できるようになってきている。また、事業所には、家族会があるものの、現在の状況において、以前のように開催することは難しくなっている。さらに、毎月の請求書に、お便りを同封して家族に送付するとともに、電話連絡時にも家族とコミュニケーションを図っている。加えて、職員の異動や退職、事業所の行事予定等は、年4回発行するホーム便り等に掲載し、報告をすることができている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	明るく笑顔で声をかけ気軽に訪れやすい雰囲気作りや対応を行っている	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	×	出来る時には機会を作っている	/	○	△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎日写真入りのお便りを作成し送付して暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている	/	◎	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	◎	家族との会話の中から具体的な内容を把握し報告を行っている	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	常に家族との話し合いを持ち本人を支えるよう努力している	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	年4回GH便りを作成し、職員の退職や行事の内容等を報告し、事業所の事を伝えるようにしている	/	◎	◎	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	出来る時には提供している	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	状況の変化があるたびに家族に連絡、説明を行い対応などを話し合っている	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	来園時等に近況報告を交えながら意見や希望を聞くよう努めている	/	/	◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	具体的に説明を行い、理解・納得を得られている	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退居となった時には、納得のいくような退居先となるように支援している	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	具体的に説明し同意を得ている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
Ⅲ. 地域との支え合い										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	×	事業所の設立段階からの機会は作れておらず、理解を図れていない所もある	/	◎	/	事業所では町内会に入会しており、地域における事業所の知名度も高くなっている。前回の外部評価以降に、目標達成計画に取り上げ、事業所として地域との関係性をより深めていこうとした矢先に、新型コロナウイルス感染症が流行し始めたため、コロナ禍の収束を見極めながら、交流できる取組みを予定している。今後は、回覧板等を活用して地域行事を把握し、利用者と一緒に参加して交流をするなど、利用者と職員が一緒に、地域とかかわれるような工夫を期待したい。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	×	日頃からの関係を深める働きかけは出来ていない	/	△	○		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	見守ったり、支援してくれる地域の方は増えていない	/	/	/		/
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	気軽に立ち寄り遊びには来ていない	/	/	/		/
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	日常的な付き合いは出来ていない	/	/	/		/
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	働きかけは出来ていない	/	/	/		/
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	地域資源の把握に努めている。安全で暮らすことができるように努めている	/	/	/		/
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	×	日頃からの理解を深める働きかけ、取り組みは行えていない	/	/	/		/
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	毎回、同じメンバーでの開催となってしまっている	/	○	○	現在のコロナ禍において、外部からの集合形式の会議は実施しておらず、利用者や職員のみで運営推進会議を開催している。会議では、事業所の活動状況や評価などを報告するほか、利用者や職員等からの主な要望や助言を行うとともに、その回答が主な内容となっている。また、家族には、会議の報告書を送付している。今後は、利用者や職員のみでの会議においても、事前に会議の参加メンバーに資料を送付して意見をもらうなど、コロナ禍の会議においても工夫した有意義な会議となることを期待したい。	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	報告する機会を作り、報告しサービスの質の向上に努めている	/	/	◎		
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	会議で出た意見は、日々の取り組み・サービス向上に活かし、その結果等は会議にて報告するようにしている	/	◎	○		
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	×	同じ時間での開催となっており、配慮・工夫は出来ていない	/	/	◎		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	議事録を公表している	/	/	/		

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	日々の支援が理念に基づいたものとなるように、共通認識を持ち、日常的に取り組むように努めている	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	理念の揭示はしているが、分かりやすく伝える事は出来ていない	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	法人内の研修・法人外の研修への参加を積極的に受けられるよう取り組んでいる	/	/	/	事業所の施設長は、週3回程度来訪があり、管理者や職員の話に耳を傾けてくれている。事業所では、定期的に研修を実施したり、外部研修に参加したりするなど、職員のスキルアップに努めている。また、職員は毎年目標を立て、管理者は実践できているか評価をするなど、OJT(職場内教育等)にも取り組んでいる。また、事業所では、職員が希望休や有給休暇を取得することができるほか、良好な職員同士の関係もあり、働きやすい職場環境づくりができています。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	定期的なOJTの実施を行い、職員一人ひとりのスキルアップにつなげている	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	風通しの良い職場となるように、環境整備・条件の整備に努めている	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	同業者との交流をする機会はまだ作れていない	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	年二回の面談を行うなど職員のストレス軽減に努めている	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	具体的な行為なのか理解している	/	/	/	職員は、内部研修で虐待防止等を学んでおり、職員は理解している。また、職員同士の仲が良く、不適切なケアを発見した場合には、相談や注意し合える関係づくりができています。特に、言葉づかいには気を配り、職員は意識した言動に努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	カンファレンス時などに話をしたりしている	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	職員一人ひとりが注意を払い、発見した時の対応・手順について理解出来ている	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	日々の業務の中で一人ひとりの状態を確認しながら、注意している	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	正しく理解出来ている	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	カンファレンス・勉強会や身体拘束委員会の中で話し合う機会を作っている	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	身体拘束に対する弊害を理解して頂き、話し合いを行いながら理解を図っている	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	全ての職員が理解出来ていない所がある				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	必要に応じて情報提供・相談にのれるように努めている				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	連携体制を築けるように努めている				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	マニュアル作成し周知している				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	定期的な訓練は行えていないが、実践力を身につけるよう努めている				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハット発生時は各職員に周知し、カンファレンス時などに話す機会を作ったり、検討している				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	カンファレンス時に話し合ったり、日々の業務の中でも話し合い、一人ひとりのリスクを把握し事故防止に向けて取り組んでいる				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルを作成しており、各職員に周知している				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	苦情があった時には手順に沿って速やかに対応するように努めている				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	速やかに回答するようにし、話し関係性を作れるように努めている				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	個別に話を聞くなどし、要望等がないか確認するように努めている			◎	日々の会話の中から、職員は利用者の希望や意見を聞くほか、汲み取るよう努めている。家族には、コロナ禍もあり電話連絡時に意見や要望を聞き取ることが多くなっている。また、職員は管理者と話しやすく、意見や要望を伝えることができている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	菜園時などに話を聞くなどし、伝えられような機会を作るように努めている	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	必要に応じて適宜行っている				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	意見や要望・提案を聞く機会を作っている				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	一人ひとりと必要に応じて話す機会を設けるようにし、検討している			○	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	自己評価に取り組んでいる				外部評価のサービスの評価結果は、運営推進会議を活用して報告をしているほか、家族にも送付して報告をしている。コロナ禍の収束後には、会議の参加メンバーや家族に取組み状況の確認などのモニターを呼びかけたり、家族に評価に対する意見をもらったりするなど、評価を再確認できる取組みの実施を期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	課題等を明らかにし、意識統一・学習の機会となるように努めている				
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	事業所全体で取り組むように努めている				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	報告を行い、今後の取り組みに活かせるように努めている	△	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	確認できていない時もある				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	◎	マニュアルを作成しており、各職員周知している				事業所では、法定の避難訓練を実施している。コロナ禍の収束後には、事業所として、地域の町内会や公民館とのつながりをより深めながら、地区の防災訓練に参加協力をしたり、事業所の訓練に地域住民や家族の参加を呼びかけたり、地域と災害時の協力体制を話し合う機会を設けるなど、少しずつ災害時における地域との連携が図れることを期待したい。また、今後管理者は、家族に事業所の防災計画や災害時の対応など、丁寧に伝えていくことを予定している。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	定期的に訓練を行っており、安全に避難出来るように取り組んでいる				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常食用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	定期的に行えている				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	日頃からの連携は図れていない。	△	◎	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	×	取り組めていない				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	×	取り組めていない				運営推進会議の開催などを通して、市行政や地域包括支援センター等と連携をしている。コロナ禍以前は、中学生の職場体験に協力することができていたが、現在は中止となっている。相談は少ないものの、事業所の見学希望などの相談には快く応じている。今後は、事業所において、地域の高齢者や認知症の方、家族への相談支援ができるということを回覧板等を活用して周知するなど、少しずつ地域に情報が発信できることを期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	行っていない		×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	×	活用できていない				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	協力出来ていない				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	×	行っていない			○	